

## 世界金融ハイブリッド証券ファンド2014-03 (為替ヘッジあり/限定追加型)

### 償還 運用報告書 (全体版)

第6期 (償還日 2017年3月24日)

■当ファンドの仕組みは次の通りです。

商品分類	追加型投信/内外/その他資産 (ハイブリッド証券)
信託期間	2014年3月28日から2017年3月24日までです。
運用方針	世界の大手金融機関が発行するハイブリッド証券 (優先証券および劣後債) を主要投資対象とし、インカムゲインの確保と投資信託財産の成長を図ることを目的として運用を行います。外貨建資産については、原則として対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図ります。アムンディ アセットマネジメントに運用の指図に関する権限の一部または全部を委託します。
主要運用対象	世界の大手金融機関が発行するハイブリッド証券 (優先証券および劣後債)
組入制限	株式等への投資割合は投資信託財産の純資産総額の10%以下とします。外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分配方針	毎決算時 (年2回、原則毎年3月25日および9月25日。休業日の場合は翌営業日) に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた配当等収益と売買益 (評価益を含みます。) 等の全額とします。収益分配金額は、分配対象額の範囲で委託者が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行わないことがあります。

### 受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。

当ファンドはこの度、2017年3月24日に信託期間を満了し、償還の運びとなりました。ここに、謹んで運用経過と償還内容をご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

アムンディ・ジャパン株式会社

〒100-0011 東京都千代田区内幸町1丁目2番2号

お客様サポートライン 0120-202-900 (フリーダイヤル)

受付は委託会社の営業日の午前9時から午後5時まで

ホームページアドレス: <http://www.amundi.co.jp>

# 世界金融ハイブリッド証券ファンド 2014-03 (為替ヘッジあり/限定追加型)

## ■最近5期の運用実績

決 算 期	基 準 価 額 (分配落)	税 込 分 配	み 金 期 騰 落	中 率	債 組 入 比	券 率	純 資 産 額
2 期 (2015年 3 月25日)	円 10,229		円 100	% 2.0		% 96.2	百万円 5,271
3 期 (2015年 9 月25日)	10,148		75	△0.1		93.3	4,397
4 期 (2016年 3 月25日)	10,000		50	△1.0		81.3	3,777
5 期 (2016年 9 月26日)	10,110		0	1.1		72.9	2,858
(償 還 時) 6 期 (2017年 3 月24日)	(償還価額) 9,930.82			△1.8		—	2,430

(注1) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注2) 当ファンドは運用成果の目標基準となるベンチマークを設けておりません。また、当ファンドと適切に対比できる参考指数はありません。以下同じ。

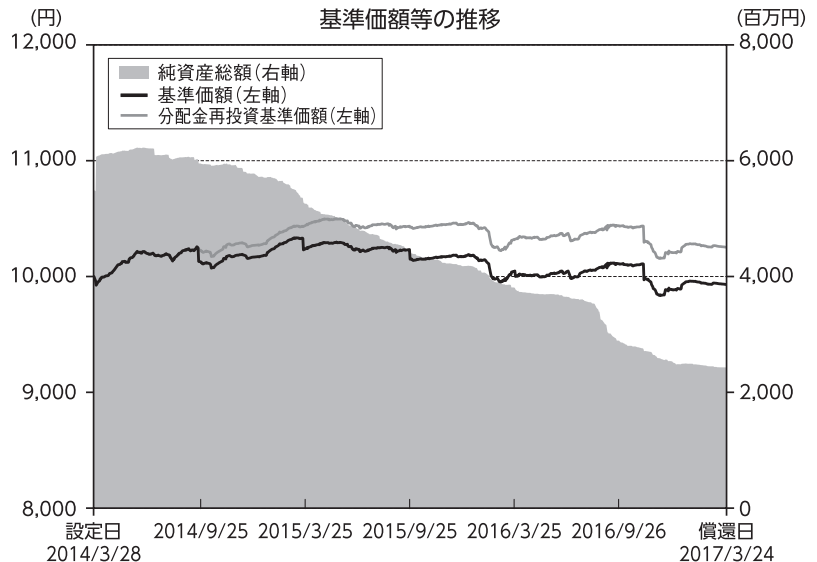
## ■当期中の基準価額等の推移

年 月 日	基 準 価 額	騰 落 率	債 組 入 比	券 率
(期 首) 2016年 9 月26日	円 10,110	% —		% 72.9
9 月末	10,102	△0.1		73.7
10 月末	10,109	△0.0		71.9
11 月末	9,843	△2.6		76.8
12 月末	9,897	△2.1		67.1
2017年 1 月末	9,955	△1.5		35.5
2 月末	9,935	△1.7		17.9
(償 還 時) 2017年 3 月24日	(償還価額) 9,930.82	△1.8		—

(注) 騰落率は期首比です。

【設定以来の基準価額等の推移】

第1期首 (設定日)	10,000円
第6期末 (償還日)	9,930円82銭
既払分配金 (税込み)	325円
騰落率	2.5% (分配金再投資ベース)



(注1) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンドの運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注2) 実際のファンドにおいては、分配金の再投資の有無や、ファンドの購入価額により課税条件が異なる場合もあるため、お客様の損益の状況を示すものではありません。

【基準価額の主な変動要因】

上昇要因

- ① ECB（欧州中央銀行）が2014年の夏に資産査定を実施することになり、欧州金融機関の透明性が大幅に改善すると期待から、金融債、とりわけハイブリッド証券（優先証券および劣後債）の魅力が一段と高まったこと
- ② 2015年1月にECBが量的緩和策の詳細を発表し、3月に実施したこと
- ③ 2016年春以降、ECBが包括的な金融緩和策を発表したことなどで市場のセンチメントが回復し、ハイブリッド証券の価格が安定的に推移したこと
- ④ 信託期間を通じて、ハイブリッド証券からインカムゲインを得たこと

下落要因

- ① 2014年9月後半に大手格付会社のS&P（スタンダード&プアーズ社）が、評価基準の変更を実施し大半のハイブリッド証券を格下げしたこと
- ② 2015年6月から7月上旬にかけて、ギリシャのユーロ離脱懸念によりリスク回避姿勢が強まったことなどの影響が世界ハイブリッド証券市場にも波及したこと
- ③ 2016年初から2016年3月上旬にかけて、原油価格の急落や中国の景気減速懸念などを背景にリスク回避姿勢が高まったこと
- ④ 2016年11月に、当ファンドで保有するスタンダード・チャータードが繰上償還を見送ると発表したことで価格が下落したことや、その影響が他の銘柄にも波及したこと

## 【投資環境】

### ＜世界ハイブリッド証券市場＞

2014年夏にECBによって金融機関の資産査定が実施されることになり、また、透明性の高い新たな金融の枠組み創設も投資家の信頼感を高めることになったことで、世界ハイブリッド証券市場にとって追い風となりました。その後も、ECBが利下げや中央銀行への預金金利をマイナスするなどの金融緩和を実施したことで堅調に推移しました。9月末には大手格付会社S&Pが格付手法の見直しに基づき欧州金融機関の発行した大半のハイブリッド証券を格下げしたことや、ECBによる資産査定の結果公表が近づくにつれて弱含む局面もありましたが、結果は投資家にとって安堵（あんど）する内容となり、2015年1月に、ECBが大規模な国債購入プログラムの導入を決定したことから持ち直しました。年央に、ギリシャのユーロ離脱懸念が高まったことでリスク回避の動きから軟調に推移した後は、大手銀行については既に資本や流動性比率が強化されており、リスクに対して十分に対応できる状態にあるとみられ、底堅く推移しました。しかし、12月半ばから、中国経済の減速や原油価格の急落を背景に市場のリスク回避姿勢が強まりました。

年が明けてからもドイツ銀行の発行したAT（その他Tier1）債の利払いをめぐる懸念から、世界ハイブリッド証券市場は下落しました。しかし、その後はECBの追加的な緩和策などから市場のセンチメントは回復に向かいました。6月に英国の国民投票でEU（欧州連合）離脱が選択されたことで先行き不透明感が高まり一時的にリスク回避姿勢が強まったものの、7月末には信用スプレッド（国債との利回り格差）は英国の国民投票前の水準に戻りました。8月になると、英国の量的緩和プログラムに対する期待から、英国の発行体の信用スプレッドは縮小を続け、英国の銀行の利回り格差縮小は、大陸欧州の銀行と比べても特に目立ちました。10月に米国の銀行の第3四半期決算が市場の予想を上回ったことから、欧州の銀行に対しても好決算の期待が高まり、世界ハイブリッド証券市場の下支えとなりましたが、11月にスタンダード・チャータードや、コムertz銀行が初回の繰上償還の見送りを発表したことで、世界ハイブリッド証券市場は大きく下落しました。新規の発行による金利負担よりも繰上償還を見送ることで低コストで収まる旧型優先証券の維持が選好されやすく、その結果、償還が当初よりも遅くなるリスクが市場であらためて織り込み直されたためでした。12月以降、米国と欧州における長短金利差の拡大が金融セクターの収益改善につながるとの期待から堅調な展開となりました。

2017年3月に、ドイツ銀行が子会社のドイツ・ポスト銀行を、国内銀行部門と統合する方向であることを示したことで、市場ではドイツ・ポスト銀行のハイブリッド証券の繰上償還の可能性が高まるのではないかとの見方が広がりました。また、同月には、フランスのクレディ・アグリコルが同行のハイブリッド証券について繰上償還を見送ることを発表しましたが、投資家から時価とほぼ同水準で買い戻す機会を提供することを明らかにしたことで、当該証券価格および市場に与える影響は限定されました。

## 【ポートフォリオ】

世界の金融機関が発行するハイブリッド証券を主要投資対象とし、インカムゲインの確保と投資信託財産の成長を目指して運用を行いました。また、外貨建資産については、対円で為替ヘッジを行い、為替変動リスクの低減を図りました。

当ファンドの主な売買は、解約への対応や、外貨建資産の為替ヘッジに関連した最適化を図る調整、償還資金の再投資などを行いました。また、英国のEU離脱を問う国民投票の前後や、繰上償還の見送りが相次ぐ環境時には、リスク低減を目的とした銘柄の入れ替えを行いました。

（アムンディ アセットマネジメント）

## 【分配金】

第6期は最終期のため、分配は行いませんでした。設定来の分配金額については、後記の「投資信託財産運用総括表」をご覧ください。

満期償還にあたり、受益者のみなさまのご愛顧に対して心からお礼申し上げます。

■ 1万口当たりの費用明細

項 目	第6期 (2016年9月27日 ～2017年3月24日)		項 目 の 概 要
	金額	比率	
(a)信託報酬 (投信会社) (販売会社)  (受託会社)	81円 (40) (40)  ( 2)	0.810% (0.397) (0.397)  (0.016)	信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の 情報提供等の対価 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b)その他費用 (保管費用)  (印刷費用) (その他)	4 ( 1)  ( 1) ( 3)	0.040 (0.006)  (0.009) (0.025)	その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管及び資金の送金・ 資産の移転等に要する費用 ファンドの法定開示資料の印刷に係る費用 信託財産に関する租税、信託事務の処理に要する諸費用等
合 計	85	0.850	

期中の平均基準価額は9,973円です。

(注1) 費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注3) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注4) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

■ 期中の売買及び取引の状況（2016年9月27日から2017年3月24日まで）  
ハイブリッド証券等

		買付額	売付額
		千米ドル	千米ドル
外	ア メ リ カ	—	6,399 (6,313)
	ユ フ ラ ン ス ー ス ペ イ ン ロ 日 本 イ ギ リ ス	千ユーロ — — —	千ユーロ — 492 — 840
国	イ ギ リ ス	千英ポンド —	千英ポンド 519 (1,650)

(注1) 金額は受渡し代金です。経過利子分は含まれておりません。

(注2) 単位未満は切捨てです。

(注3) ( )内は償還等による増減分で、上段の数字には含まれておりません。

# 世界金融ハイブリッド証券ファンド 2014-03 (為替ヘッジあり/限定追加型)

## ■主要な売買銘柄 (2016年9月27日から2017年3月24日まで)

ハイブリッド証券等

買 付		売 付	
銘 柄	金 額	銘 柄	金 額
	千円		千円
	—	ACAFP 6.637 05/29/49	363,484
		RBS 7.64 03/29/49	265,153
		RBS 7.0916 10/29/49	102,343
		STANLN 6.409 01/29/49	91,048
		DANBNK 5.563 03/29/49	72,309
		BBVASM 4 1/2 02/16/22	59,961

(注1) 金額は受渡し代金です。経過利子分は含まれておりません。

(注2) 単位未満は切捨てです。

(注3) 金額は、外貨額を約定日の属する月の月末(決算日の属する月については決算日)の日本の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

## ■利害関係人との取引状況等 (2016年9月27日から2017年3月24日まで)

### (1) 当期中の利害関係人との取引状況

区 分	当			期		
	買付額等 A	うち利害関係人 との取引状況B	$\frac{B}{A}$	売付額等 C	うち利害関係人 との取引状況D	$\frac{D}{C}$
公 社 債	百万円 —	百万円 —	% —	百万円 954	百万円 —	% —
為 替 先 物 取 引	5,821	3,116	53.5	2,801	2,801	100.0
為 替 直 物 取 引	32	—	—	3,045	302	9.9

(注) 公社債には現先などによるものを含みません。

### (2) 当期中の売買委託手数料総額に対する利害関係人への支払比率

項 目	当 期
売 買 委 託 手 数 料 総 額 (A)	— 千円
う ち 利 害 関 係 人 へ の 支 払 額 (B)	— 千円
(B) / (A)	— %

(注) 利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人であり、当ファンドに係る利害関係人とはクレディ・アグリコル銀行です。

## ■組入資産の明細 (2017年3月24日現在)

償還日現在、有価証券の組入はありません。

# 世界金融ハイブリッド証券ファンド2014-03（為替ヘッジあり／限定追加型）

## ■投資信託財産の構成（2017年3月24日現在）

項 目	償 還 時	
	評 価 額	比 率
	千円	%
コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他	2,451,391	100.0
投 資 信 託 財 産 総 額	2,451,391	100.0

(注) 金額の単位未満は切捨てです。

## ■資産、負債、元本及び償還価額の状況

2017年3月24日現在

項 目	償 還 時
(A)資 産	2,451,391,395円
コ ー ル ・ ロ ー ン 等	2,451,391,395
(B)負 債	21,249,117
未 払 信 託 報 酬	21,002,612
未 払 利 息	18,535
そ の 他 未 払 費 用	227,970
(C)純 資 産 総 額 (A - B)	2,430,142,278
元 本	2,447,070,489
償 還 差 損 金	△ 16,928,211
(D)受 益 権 総 口 数	2,447,070,489口
1 万 口 当 たり 償 還 価 額 (C / D)	9,930円82銭

(注記事項)

期首元本額	2,827,267,544円
期中追加設定元本額	0円
期中一部解約元本額	380,197,055円

## ■損益の状況

当期 自2016年9月27日 至2017年3月24日

項 目	当 期
(A)配 当 等 収 益	45,530,086円
受 取 利 息	45,032,731
そ の 他 収 益 金	674,794
支 払 利 息	△ 177,439
(B)有 価 証 券 売 買 損 益	△ 68,254,548
売 買 益	281,458,470
売 買 損	△349,713,018
(C)信 託 報 酬 等	△ 22,053,397
(D)当 期 損 益 金 (A + B + C)	△ 44,777,859
(E)前 期 繰 越 損 益 金	28,841,531
(F)追 加 信 託 差 損 益 金	△ 991,883
( 売 買 損 益 相 当 額 )	(△ 991,883)
償 還 差 損 金 (D + E + F)	△ 16,928,211

(注1) (C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。

(注2) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。

(注3) 信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用

信託約款第40条に規定する計算期間を通じて毎日、投資信託財産の純資産総額に年10,000分の75の率を上限として乗じて得た額を支払っております。

■投資信託財産運用総括表

信託期間	投資信託契約締結日	2014年 3 月 28 日			投資信託契約終了時の状況	
	投資信託契約終了日	2017年 3 月 24 日			資産総額	2,451,391,395円
区分	投資信託契約締結当初	投資信託契約終了時	差引増減または追加信託	負債総額	21,249,117円	
				純資産総額	2,430,142,278円	
受益権口数	5,494,261,889口	2,447,070,489口	△3,047,191,400口	受益権口数	2,447,070,489口	
元本額	5,494,261,889円	2,447,070,489円	△3,047,191,400円	1万口当たり償還金	9,930.82円	
毎計算期末の状況						
計算期	元本額	純資産総額	基準価額	1万口当たり分配金		
				金額	分配率	
第1期	5,875,923,440円	5,952,534,709円	10,130円	100円	1.0000%	
第2期	5,153,548,797	5,271,812,028	10,229	100	1.0000	
第3期	4,333,748,457	4,397,745,047	10,148	75	0.7500	
第4期	3,777,354,604	3,777,515,620	10,000	50	0.5000	
第5期	2,827,267,544	2,858,403,074	10,110	0	0.0000	

■償還金のお知らせ

償還決算日	2017年3月24日
1万口当たり償還金(税込み)	9,930円82銭